

第3章 八王子の歴史文化の特徴

1. 八王子の歴史文化を知るために

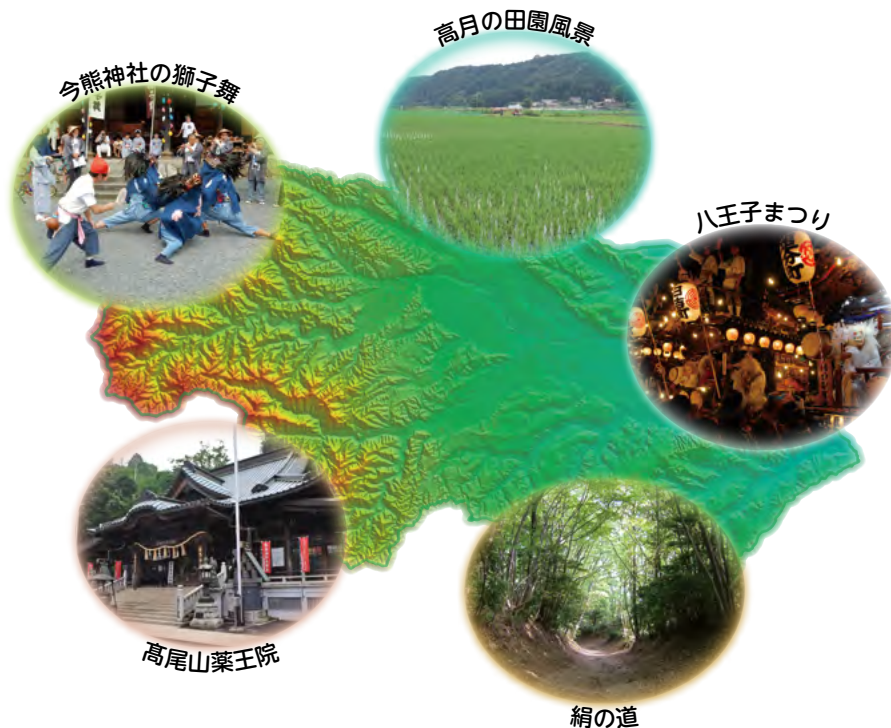
(1) 「八王子の歴史文化」とは

地域の歴史文化の背景には、その土地ごとに地勢や植生などの自然環境、人々の営みがあり、それぞれの土地で地域の歴史文化資源が受け継がれています。

本市の地勢的な要素は、市域の西部を占める山地や北部・南部に代表される丘陵とそこに形成されている谷戸、そしてそれらを源として流れ出た川が形成した平地と多岐にわたっています。そして、そこには多様な動植物が息づいて、豊かな緑と四季折々の姿を人々の前に映し出していきます。こうした自然環境のもとに人々は生活し、土地ごとに暮らしや生業、文化・風習や信仰などが形作られ、次代に受け継がれていきます。山地や丘陵地は豊かな水と緑を背景に田畑や酪農、養蚕などが営まれるようになり、平地は甲州道中の宿駅として人々が集まる商業都市となりました。こうした人々の営みを背景に、今、私たちが暮らす八王子には、数多くの文化財とそれに関わる歴史文化資源がいたるところに存在しています。



歴史文化の背景



地理的な特徴と関係する歴史文化資源の例

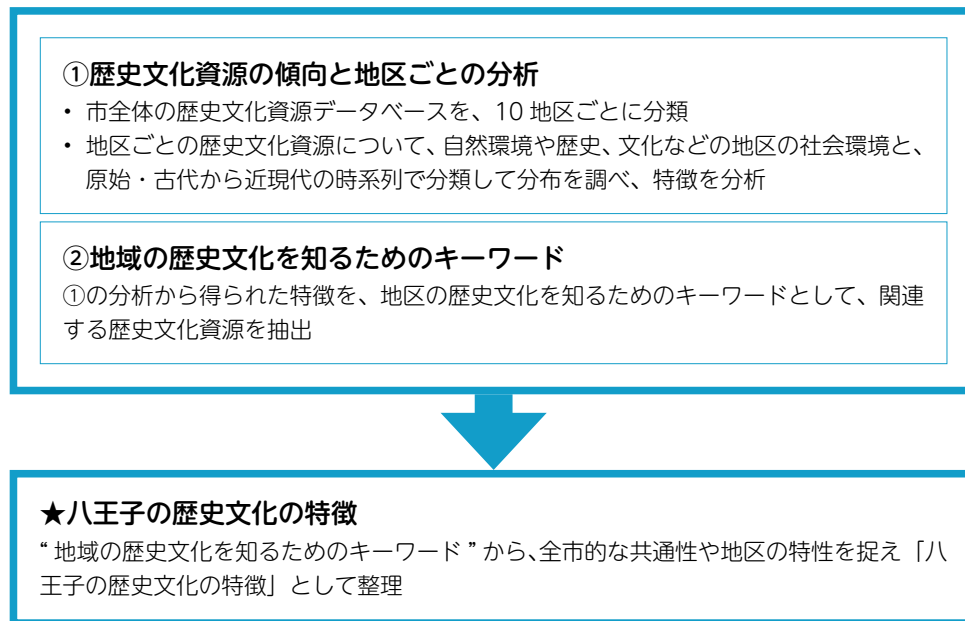
(2) 八王子の歴史文化の考え方

多様な自然環境を持つ八王子の歴史文化を捉えるためには、地形や自然との関わりの中で、「人々が暮らす地域」ごとに歴史文化資源を捉え、地域の歴史文化の特徴を把握した上で、八王子全体の歴史文化の特徴として捉えていく必要があります。

「人々が暮らす地域」については、明治22年(1889年)に市制・町村制が施行された時の行政単位に該当する合併前の10町村としました。現代の八王子市を形成する上で切り離すことのできない10の町村は、地域の歴史文化を捉える“生活圏”“文化圏”とも考えることができます。

この10の町村を「地区」として、それぞれの地区について地区別ワークショップでの意見も参考にしながら歴史文化資源データベースを考察し、地区ごとの歴史文化を知るための手掛かりを“地域の歴史文化を知るためのキーワード”としてまとめました。

作業フロー



2. 歴史文化資源の地区ごとの傾向

市域にある歴史文化資源について、分類ごとに数量の多いものを順にあげると次のとおりとなります。

- ①石仏・石塔（歴史的資源）
- ②遺跡（歴史的資源）
- ③公園（地理的資源）
- ④道標・石碑・記念碑（歴史的資源）
- ⑤人物（コト資源）
- ⑥地名・字名（情報資源）
- ⑦祭礼・祭り（コト資源）
- ⑧寺社（歴史的資源）
- ：

これらの資源を10地区で整理すると、次のような傾向が見られました。

旧八王子地区

- 政治、経済、学術等の分野で活躍し、事績を残した人物ゆかりの資源が多い
- 寺社が多く所在し、祭礼やお祭りなどの地域行事が多い

小宮地区

- 北大谷古墳（多摩地域最大の古墳）や中田遺跡など、特徴的な遺跡がある
- 寺社や祭礼などが多く、獅子舞の伝承もある

横山地区

- 船田石器時代遺跡や梶田遺跡が所在
- 寺社や中世武士の居館跡、城館跡が多く所在
- 石仏、石碑、板碑が多く残る

元八王子地区

- 八王子城跡を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 湧水が豊富で、石仏や板碑、道標などの石造物や寺社も多い

恩方地区

- 古案下道（陣馬街道）が東西を貫き、浄福寺城跡や石仏、板碑などが残る
- 民俗行事「上案下のセエノカミ」や郷土芸能「小津の獅子舞」が伝承

川口地区

- 谷戸や湧水が自然のまま残る
- 川口エンドウや宗兵衛裸麦などの特産資源がある
- 郷土芸能「今熊神社の獅子舞」「田守神社の獅子舞」「山入の籠獅子舞」が伝承

加住地区

- 滝山城跡を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 高月の田園風景（都内最大の田園）が所在

由井地区

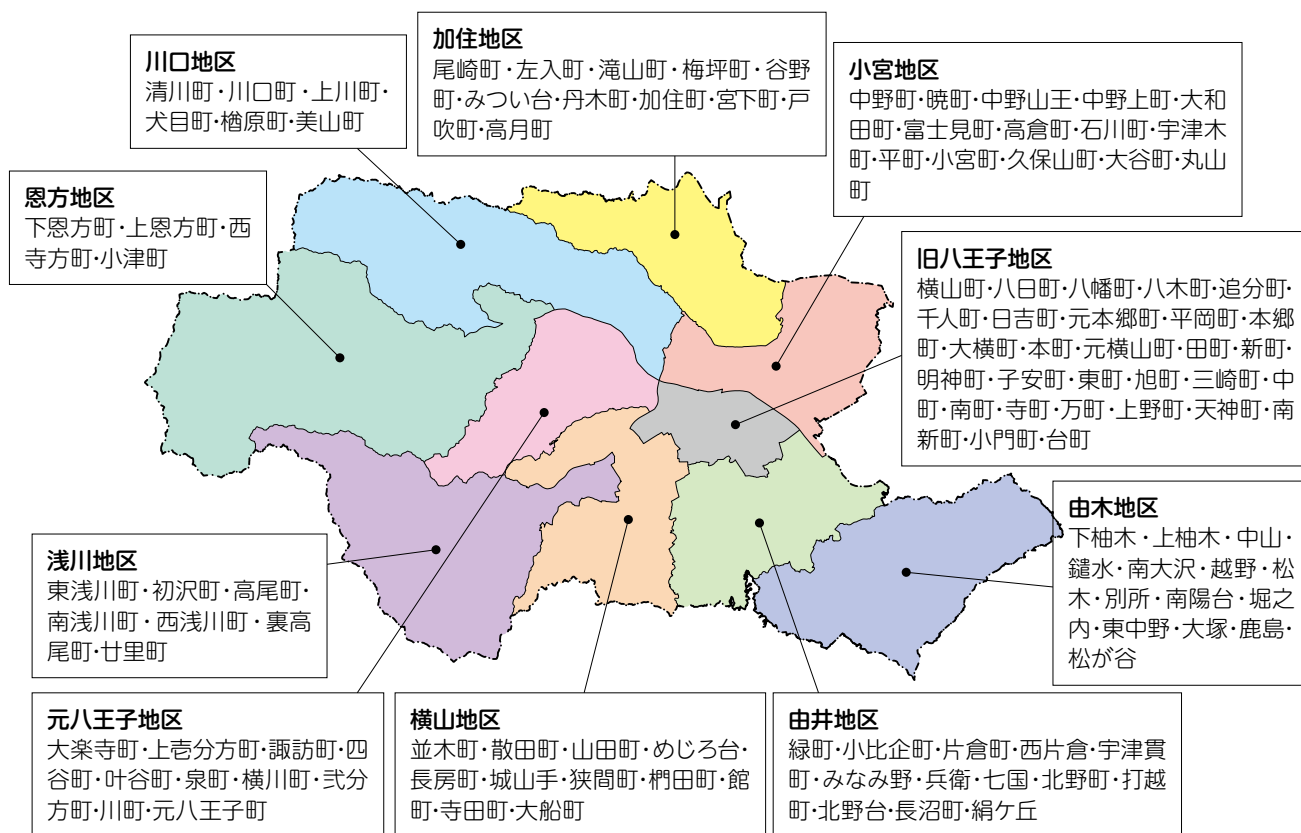
- 寺社や銘木、遺跡が多く所在
- 城跡や丘陵の自然を利用した公園が多い

浅川地区

- 小仏関跡と東西を結ぶ旧甲州街道（甲州道中）が所在
- 高尾山を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 明治の森高尾国定公園を背景とした豊かな自然環境と景観がある

由木地区

- 多摩ニュータウン遺跡群を中心に遺跡が数多く所在
- 丘陵や谷戸、里山などを活用した公園が多く所在



現在の町区分を旧市町村界にあてはめ、10地区に割り当てて地区界としたため、現在の町会区分や旧町村界とは必ずしも一致しない。なお、町名の記載に際して丁目の表記は省略した。

10地区の位置と町名

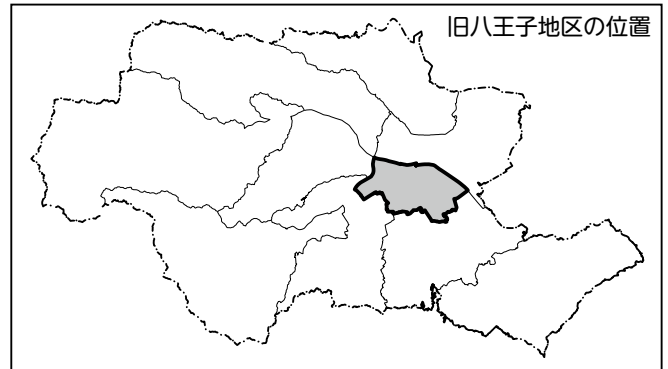
3. 地区の歴史文化を知るためのキーワード

(1) 旧八王子地区

ア 地区の概要

本市の中央部、八王子盆地の中に位置する旧八王子町の区域で、地区の北部には浅川が流れています。大正6年(1917年)、八王子町は、市制施行によって八王子市となりました。

近世以降、東西南北の街道が交差し、織物産業や商業を中心として発展し、地区全体に商業地域が広がり、住宅地が密集し、八王子市内で最も都



市としての要素が強い地区となっています。現在は、中央部を東西に甲州街道(国道20号)、南北に国道16号が走り、陣馬街道や秋川街道、野猿街道などの起点となっています。また、甲州街道の南側にはJR中央線が走り、交通の面でも中心となっています。

旧八王子地区には、平安時代末期から鎌倉時代にかけて武蔵国^{むさしのくに}で活躍した武士団、武蔵七党の一つ、横山党の根拠地があったと伝わっています。江戸時代には、落城後の八王子城下周辺の治安維持と、その後の、江戸の西の防衛のために千人同心が配置されました。千人同心は日光勤番や蝦夷地^{えぞち}の開拓、さらに長州征伐など多方面にわたり、江戸幕府の警備・防衛などの一端を担ってきました。

また、旧八王子地区には多くの寺社が残っており、伝統的な祭礼が執り行われています。

イ キーワード

甲州街道の宿場町

北条氏照築城の八王子城下にあった横山・八日市・八幡の三宿は、徳川家康の治世に現在の中心市街地に移転され、その後、十五宿に増えて八王子宿として発展しました。浅川の洪水から八王子宿を守るために大久保長安らが築いた「石見土手」の一部が今も残っています。八王子宿は江戸と甲斐国^{かいのくに}(現山梨県)をつなぐ甲州道中最大の宿場町となり、生糸や炭の運送、富士講や高尾講の講中などで大いににぎわいました。宿場の町割りは、街道沿いに多くの家を配置



石見土手

するために間口は狭く奥行き長い短冊状に割り付けられました。第2次世界大戦の八王子空襲では市街地の8割が焼失しましたが、現在の中心市街地の店舗や建物の奥行きにその名残を見ることができます。

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	長田作左衛門墓〔極楽寺〕
市指定文化財	石見土手〔宗格院〕、傳法院石塀、時の鐘〔念仏院〕、大久保石見守長安陣屋跡〔産千代稻荷神社〕、新町竹の鼻一里塚跡〔竹の花公園〕、八王子空襲焼け跡写真原版*
指定文化財以外の歴史文化資源	甲州道中八日市宿跡の碑

主な歴史文化資源について、適宜、その所在を〔 〕内に、補足情報を()内に記載した。なお、*は郷土資料館所蔵、**は郷土資料館寄託を表す。

千人同心ゆかりのまち

八王子周辺の警備や治安維持の役割を担った千人同心は、甲斐武田氏の旧臣を中心として幕府に組織されました。その後、日光勤番(火の番)や蝦夷地開拓などの幕府の職務を担うようになりました。江戸時代の中ごろを過ぎると幕府から地誌編さんが命じられ、千人同心組頭塩野適齋・植田孟縉らが調査・執筆に参加しました。そのほか、各家の記録なども多く残されるようになりました。また、西洋の学術・文化・技術といった文化的な教養を備えた者も多く輩出しました。



桑都日記稿本

織田氏の進攻により八王子に逃れてきた武田信玄の娘松姫は、後に武田氏旧臣の千人同心たちの精神的なよりどころになりました。

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	桑都日記稿本**、木製軍船ひな形〔信松院〕、塩野適齋墓〔極楽寺〕、松原庵星布墓〔大義寺〕、原胤敦墓〔本立寺〕、松本斗機蔵墓〔宗格院〕、玉田院墓〔極楽寺〕
市指定文化財	新野家文書**、松原庵星布の俳額*、千人同心関係文書**、石坂弥次右衛門墓〔興岳寺〕、木造松姫坐像〔信松院〕、松姫尼公墓〔信松院〕、千人頭の具足*、千人頭六二間筋兜**
指定文化財以外の歴史文化資源	新編武蔵風土記稿、武蔵名勝図会(植田孟縉)、献芹微衷(松本斗機蔵)、信松院、千人同心屋敷跡記念碑

絹 と 織 物

八王子は古くから生糸の産地として養蚕が盛んで、「桑都^{そうと}」という美称で呼ばれていました。江戸時代の初期には織物を扱う市が開かれ、中期には江戸近郊という立地を活かして織物の一大集散地となり、さらに生産地としても大きな発展を遂げました。八王子織物の特徴は、時代のニーズに合わせた織物を提供し続けてきたことです。近代以降、洋装化にあわせてネクタイ地を生産するなど織物のまちとしてさらなる発展を遂げました。時代の変化とともに主力製品が変わっていく中で、守り続けられてきた伝統的な技法が「多摩織^{たまおり}」として昭和55年(1980年)に通商産業大臣(現経済産業大臣)から伝統的工芸品に、昭和57年(1982年)に東京都知事から伝統工芸品に、それぞれ指定されました。



多摩織の反物

また、明治から昭和初期にかけて、織物のまちとしての繁栄を背景に、花柳界^{かりゅうかい}も発展しました。現在では、多摩地域に唯一残る「八王子花街」として、八王子芸妓が芸者文化を伝えています。

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	多摩織、高機、力織機、のこぎり屋根の建物[平岡町、元横山町、千人町]、桑並木通り、八王子芸妓

旧八王子の信仰と伝統文化

現在、8月の上旬に行われている「八王子まつり」には多くの山車が勢ぞろいし、山車ごとの囃子^{はやし}も祭りのにぎわいを引き立てています。八王子の山車祭りの起源は、江戸時代の多賀神社の「上の祭り」と八幡八雲神社の「下の祭り」までさかのぼります。

天平宝字3年(759年)、淳仁天皇^{じゅんにんてんのう}の妃の安産祈願のため創建されたと伝わる子安神社(明神町)をはじめ、各神社で行われる祭礼なども年中行事として大切に受け継がれ、市守大鳥神社の「酉^{とり}の市」や永福稻荷神社の「しょうが祭」、浅間神社の「だんご祭」などの地域の特色ある祭りは、古くから人々に親しまれています。



八王子消防記念会の木遣

また、日吉八王子神社の境内には、江戸時代に浅川で捕れた鮎を幕府に献上していたことを伝える「あゆ塚」が建っています。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	木遣(八王子消防記念会)、多賀神社神輿、市守神社、南町の御神酒杵、八幡町の御神酒杵、三崎町の山車、中町の山車付山車人形「諫鼓鳥」、元横山町の山車、南町の山車付山車人形岩座、大横町の山車、本町の山車、八幡町(旧一丁目)の山車付山車人形「神武天皇」、八幡町(旧二丁目)の山車付山車人形「諫鼓鳥」、八幡上町の山車、八木町の山車、追分町の山車、日吉町の山車、横山町三丁目の山車人形「織田信長羅陵王」及び大獅子頭、上八日町の山車人形「素戔鳴尊」
指定文化財以外の歴史文化資源	多賀神社(上の祭り)、八幡八雲神社(下の祭り)、八幡八雲神社神輿、元本郷町の山車、小門町の山車、千人町一丁目の山車、平岡町の山車、八日町一・二丁目の山車付山車人形「雄略天皇」、横山町三丁目の山車、上八日町の山車、南町の山車人形「応神天皇」、本町の山車人形「浦島太郎」、子安神社、市守大鳥神社(西の市)、永福稻荷神社(しょうが祭)、浅間神社(だんご祭)、日吉八王子神社(あゆ塚)、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

(2) 小宮地区

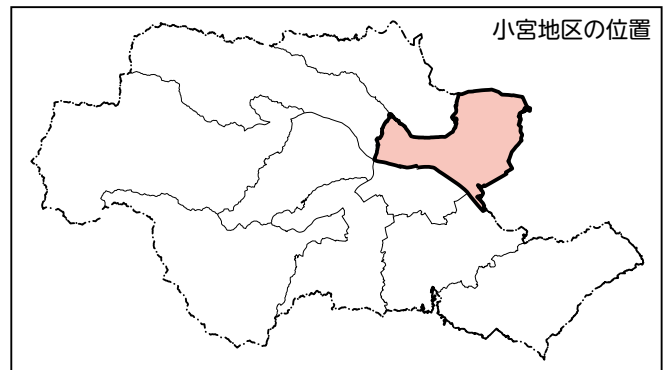
ア 地区の概要

本市の北東端に位置し、加住北丘陵の先端部から多摩川にのぞむ旧小宮町の区域です。南北にJR八高線が走り、北八王子駅と小宮駅があります。旧小宮町は、昭和16年(1941年)に八王子市と合併しました。

小宮地区では、旧石器時代以降の数多くの遺跡が発掘されました。また、平安時代の法令集とい

われる延喜式に見られる勅旨牧(牛馬の放牧地)であり、武蔵4牧の一つとされる石川牧があった場所と考えられています。また、近代になると製糸工場が稼働するようになり、戦後は工業団地が造成され、多くの企業・工場が進出しています。

小宮地区は農業が盛んで、八王子市の特産物となっている高倉ダイコンは、耐病性に優れ、生産量が安定した品種です。かつては、織物工場で働く女工さんの食事に出されるたくあんを作るために重宝されたそうです。



イ キーワード

小宮の遺跡と遺物

小宮地区は旧石器時代から中世までの遺跡が、多く発掘されています。弥生時代の終わりから古墳時代初頭に造られた四方を溝で囲んだ墓跡を「ほうけいしゅうこうぼ方形周溝墓」と呼ぶきっかけとなったうつぎみかいはら宇津木向原遺跡や、古墳時代の東国地域の代表的な集落遺跡であるなかつた中田遺跡、多摩地域最大の円墳であるきたおおや北大谷古墳などがあります。ふじみちろう富士見町遺跡、宇津木向原遺跡からはガラス玉が出土しています。宇津木向原遺跡で出土した鏡は、関東で初めて発見された弥生時代の鏡です。中世の小宮町遺跡には、堀で囲まれた館跡と考えられる遺構があり、この地域を支配していた武士の存在をうかがわせます。



北大谷古墳

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	宇津木向原遺跡方形周溝墓出土品*、北大谷古墳
市指定文化財	中田遺跡、弥生式土器**
指定文化財以外の歴史文化資源	小宮町遺跡、富士見町遺跡、宇津木向原遺跡、ガラス玉*、須恵器坏*、土師器甕*

多摩川の渡し場

江戸時代から昭和初期まで「平の渡し」と呼ばれる渡し場がありました。当時の平村と対岸の大神村（現昭島市）を結ぶ渡船があり、古川越道の往来に利用されていました。また、江戸幕府への献上鮎「玉川鮎」もこの渡し場を通過して運ばれていきました。日光勤番のために八王子を出発した千人同心もこの渡し場を通過して日光に向かったといわれています。



平の渡しのあった場所

渡し場は昭和7～8年（1932～1933年）ごろに廃止されました。現在、旧渡船場の近くには大堰が設置されていますが、往時の風景をしのぶことができます。付近には、樹齢550年と推定される天然記念物の「平町大蔵院のイチョウ」があります。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	平町大蔵院のイチョウ
指定文化財以外の歴史文化資源	平の渡し、古川越道

織物の生産

『新編武蔵風土記稿』に、多摩郡石川村の産物として「石川糸…細糸の上品なり…珍重するところなり」との記述があり、古くから生糸生産が行われていたことがわかります。幕末、横浜開港によって諸外国との貿易が始まると、生糸は外貨獲得のための花形商品となり、八王子は生糸の一次生産地として、また、関東各地から横浜への輸送の中継地として栄えました。



のこぎり屋根の建物

生糸産業を支える工場として、小宮地区には、萩原製糸工場（後の片倉製糸紡績八王子製糸場）や生糸を撚り合わせた撚糸を染める染色工場が稼働していました。この周辺では、現在も織物業や染色業が営まれ、「織物のまち」の伝統を守り継いでいます。浅川に架かる萩原橋の名称は明治34年（1901年）に萩原製糸工場の設立者萩原彦七が架設したことにちなんでいます。

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	旧片倉製糸紡績八王子製糸場蚕室、のこぎり屋根の建物〔中野上町、大和田町、暁町〕、萩原橋の碑

小宮の信仰と伝統文化

かつては大横町にあり、現在の大谷町に移転した大善寺には、市内に現存する最古の梵鐘^{ぼんしょう}、寛永3年（1626年）鑄造の「大善寺銅造梵鐘」があります。「大善寺のお十夜」は、江戸時代、八王子城落城の戦死者の霊を慰める法要として始められました。また、境内には、桐生白滝神社から機業の繁栄の守護神として勧請^{かんじょう}した機守神社^{はたもり}があり、現在も市内の織物関係者などが列席し祭礼が執り行われています。



石川町龍頭の舞

御嶽神社^{みたけ}の祭礼には、五穀豊穰・悪疫退散を祈願して、「石川町龍頭の舞^{りゅうとう}」が奉納されるなど、多くの伝統芸能や年中行事が地域の人々によって継承されています。

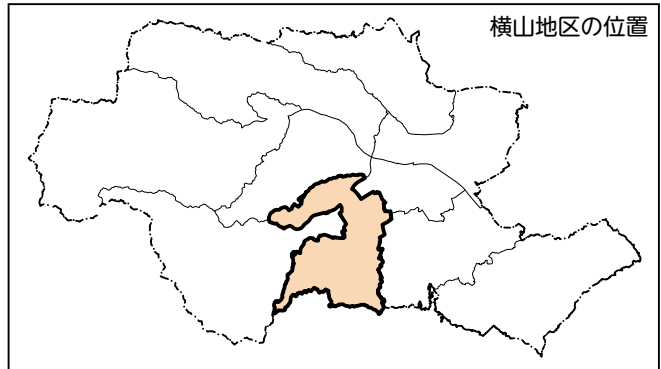
区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	大善寺銅造梵鐘、石川町龍頭の舞(石川町御嶽神社龍頭の舞保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	大善寺(お十夜)、機守神社、西蓮寺(獅子舞)、御嶽神社(獅子舞)、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

(3) 横山地区

ア 地区の概要

本市の南部に位置する旧横山村の区域です。旧横山村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

村名の由来は、この地域に伝わる古代以来の広域地名「横山」にあります。古くは万葉集に「多摩の横山」あるいは「眉引きの横山」として詠まれています。以来、今日に至るまで連綿と受け継がれてきた地名です。



横山地区には、船田石器時代遺跡や梶田遺跡があり、原始・古代から人々が生活していたことがわかります。散田町にある高宰神社の境内には、宝暦9年(1759年)に千人頭たちが寄進した灯籠が一对残されており、千人同心の守護神として敬われていたようです。また、狭間町では、戦国時代から続くといわれている伝統芸能「狭間の獅子舞」が現在も舞われています。そのほか、市民主体の祭りも盛んで、八王子ちょう祭り、めじろ台祭りや長房ふれあい端午まつりなど各地域の特色あるお祭りが行われています。

長房町には東日本唯一の陵墓地である「武蔵陵墓地」があります。

イ キーワード

横山の遺跡と遺物

横山地区には、縄文時代の船田石器時代遺跡と梶田遺跡があります。このほかには、弥生時代後半から古墳時代の集落跡がある船田遺跡や神谷原遺跡、戦国時代末に築かれた八王子城の出城と考えられている出羽山砦跡(城山手一丁目)など、縄文時代から戦国時代までの遺跡があります。梶田遺跡からは多数の縄文土器とともに多くの土偶が出土しています。またジョッキの形をした小型の深鉢が日南田遺跡から出土しており、縄文時代の人々の生活の様子をうかがうことができます。弥生時代の遺物では、中郷遺跡から都内で2例目となる小銅鐸が出土しています。



ジョッキ形深鉢

区分	主な歴史文化資源
国指定文化財	梶田遺跡、船田石器時代遺跡
指定文化財以外の歴史文化資源	船田遺跡、中郷遺跡、神谷原遺跡、日南田遺跡、ジョッキ形深鉢*、ミニチュア土器*、小銅鐸*、梶田遺跡公園、出羽山砦跡

東日本唯一の陵墓地

大正15年(1926年)12月に大正天皇が崩御し、元号は昭和に改められました。昭和2年(1927年)1月3日に東京府南多摩郡横山村・浅川村・元八王子村の御料地を「武蔵陵墓地」とすることが公表され、大喪の礼が2月7日と8日に行われました。大正天皇陵は「たまのみささぎ多摩陵」として2月13日から一般参拝が許可されると、全国から多くの参拝者が訪れ、八王子は全国にその名が知られることとなりました。多摩陵造営を契機に高尾山や多摩陵周辺が観光地として注目されるようになり、参拝客・観光客のために京王御陵線や武蔵中央電気鉄道(路面電車)が開通しました。



昭和天皇陵「武蔵野陵」(武蔵陵墓地)

平成2年(1990年)には、昭和天皇の御陵「むさしののみささぎ武蔵野陵」、さらに平成13年(2001年)には香淳皇后の陵墓「むさしののひがしのみささぎ武蔵野東陵」がそれぞれ造られました。甲州街道から御陵に至る参道には南浅川橋が架かり、その先にはケヤキ並木が続いています。また、陵墓地内には北山杉が植えられ、荘厳な雰囲気を感じられます。甲州街道のイチョウ並木は、多摩陵の完成を記念して昭和4年(1929年)に宮内省(現宮内庁)により植栽されたものです。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	甲州街道イチョウ並木
指定文化財以外の歴史文化資源	武蔵陵墓地外参道のケヤキ並木、南浅川橋

横山の信仰と伝統文化

山田町には、創建が康応2年(1390年)と伝えられるこうおんじ廣園寺があります。一般には「山田の本坊」の名で知られ、天正18年(1590年)の八王子城合戦の兵火を被り堂宇を焼失しましたが、その後再建されて現在に至っています。また、狭間町の高楽寺には、天明年間(1781~1789年)に当時の住職了弁の発願で五穀豊穰、悪病平



狭間の獅子舞

癒を祈願して造られたと伝えられる高楽寺横穴石仏群があります。散田町の高宰神社は、かつては千人同心からの崇敬も集めていたようです。現在でも地域の人々から崇敬され、祭礼が行われています。

現在の高尾町の氷川神社に奉納されていた獅子舞は、明治5年(1872年)の行政区域変更に伴って、現在の狭間町の御嶽神社に移り、「狭間の獅子舞」として継承されています。この獅子舞の歴史は古く、天正18年(1590年)に、八王子城主の北条氏照から獅子頭を賜ったことから始められたといわれています。

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	広園寺境域、木造法光円融禅師坐像〔廣園寺〕、木造大日如来(金剛界)坐像〔龍見寺〕、広園寺(総門ほか)
市指定文化財	金銅薬師如来倚像**、石平道人墓〔長泉寺〕、木造石平道人坐像〔長泉寺〕、高楽寺横穴石仏群、狭間の獅子舞(狭間獅子舞保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	高宰神社、御嶽神社(獅子舞)、祭囃子(各囃子連)、 どんど焼き

(4) 元八王子地区

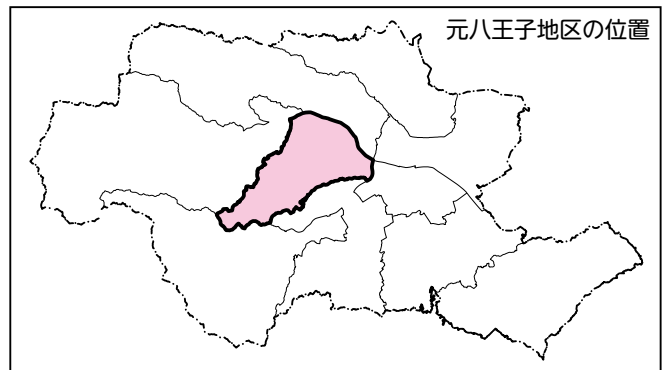
ア 地区の概要

本市の中西部に位置する旧元八王子村の区域です。旧元八王子村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

戦国時代末期に北条氏照が築いた八王子城があり、城下には横山・八日市・八幡の三宿がありました。宿は八王子城の落城に伴い現在の市街地に移転し、江戸時代の八王子十五宿に引き継がれました。

このことから、この地は、「元八王子」と呼ばれるようになりました。

元八王子地区には、中世から続くといわれる「四谷の龍頭舞^{りゅうづまい}」や、近世から始まった諏訪神社の「まんじゅう祭」などの祭礼が継承されています。また、平成24年(2012年)からは「元八王子北條氏照まつり」が行われています。



イ キーワード

北条氏照と八王子城

戦国時代末期、小田原を本拠地とした戦国大名北条氏康の三男氏照は、領国西側の守りとなる八王子城を築きました。天正18年(1590年)、豊臣秀吉によって送り込まれた、前田利家・上杉景勝らの数万といわれる軍勢から激しい攻撃を受け、八王子城は6月23日に落城しました。約400年の時を経て発掘調査が行われた城跡では、御主殿やそこに続く虎口などの復元が行われています。また、ベネチア産レースガラス器の破片や中国製の染付皿、国産陶器などが出土しており、当時の戦国武将の豊かな生活ぶりがうかがえます。



八王子城跡

元八王子町の宗関寺^{そうかんじ}は延喜年間(901～923年)の草創といわれ、北条氏照によって永禄7年(1564年)に再興されたといわれます。しかし八王子城落城の時に全焼し、天正18年(1590年)に朝遊山宗関寺として再興され、明治25年(1892年)に現在の場所に移築されました。氏照の百回忌に際し、氏照家臣の子孫により「北条氏照および家臣墓」が寺の近くに建立され、境内には八王子城の戦死者を追善供養するために寄進された「宗関寺銅造梵鐘^{ぼんしょう}」があります。

区分	主な歴史文化資源
国指定文化財	八王子城跡
都指定文化財	北条氏照および家臣墓、西蓮寺薬師堂
市指定文化財	宗関寺銅造梵鐘、銅造地藏菩薩坐像(相即寺)
指定文化財以外の歴史文化資源	八王子神社、住吉神社、宗関寺、相即寺、西蓮寺、ベネチア産レースガラス器他八王子城跡出土品*

元八王子の信仰と伝統文化

建久2年(1191年)に鎌倉の鶴岡八幡宮の旧神像を梶原景時が拝領し、八幡神社を勧請かんじょうしたと伝わっています。参道の途中に、勧請時に植えられたと伝えられる梶原杉と呼ばれたスギがあり、長く神木として崇敬されていました。昭和47年(1972年)に枯死してしまいましたが、幹の一部を年輪標本として郷土資料館で展示しています。



四谷の龍頭舞

諏訪町の諏訪神社では「まんじゅう祭」が毎年開催されています。由縁は、諏訪神社の祭礼が行われる日に家ごとでまんじゅうを作り、それを食べると病気をしないと伝えられてきたことによります。そして、300年以上前から雨乞い祈願として舞われていると言われる伝統芸能「四谷の龍頭舞」やお囃子が現在も奉納されています。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	四谷の龍頭舞(四谷町龍頭の舞保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	八幡神社、梶原杉年輪標本*、諏訪神社(獅子舞・まんじゅう祭)、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

元八王子の水風景

元八王子地区の北端を流れる浅川は陣馬山を源流として、城山川・南浅川と合流して八王子盆地を東流しています。浅川左岸では伏流水によって湧き水が現れやすくなっていて、かのうやえのきいけ、かのうやえのきいけ、叶谷榎池や横川弁天池湧水は、八王子湧水めぐりの8湧水の内に数えられています。横川弁天池は水田の用水として利用されていました。



横川弁天池湧水

陣馬街道と南浅川が交わる一帯は砂礫層されきそうの下を水が流れていたことから、江戸時代は「水無川」と呼ばれていました。これが「水無

瀬橋」の名前の由来となっています。この付近からの高尾山の眺めは、浅川の中流域にサイクリングやウォーキングのために整備した浅川ゆったりロードの景観の一つとして、市民に親しまれています。

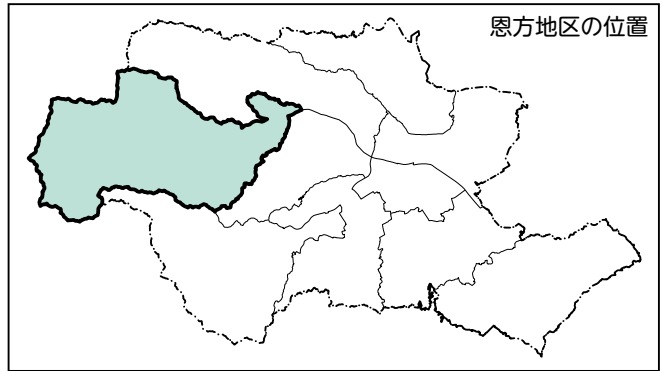
区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	横川弁天池、叶谷榎池、泉町湧水群

(5) 恩方地区

ア 地区の概要

本市の西部に位置する旧恩方村の区域です。旧恩方村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

恩方地区を東西に貫く陣馬街道は、古くは案下道、恩方街道、甲州裏街道、佐野川往還とも呼ばれていました。中世には、地区の東寄りを鎌倉街道山の根の道が南北に走っていました。地区東部の丘陵は恩方丘陵と呼ばれています。



恩方地区には、大石氏の居城とされる浄福寺城跡や、八王子城の支城と考えられる小田野城跡(伝小田野屋敷跡)などがあります。また、甲州口警備のために上恩方村(現上恩方町)には口留番所くちどめばんしよが設けられていました。

上恩方町には、山々に沈む夕やけの情景を描写した童謡「夕焼小焼」にちなんだ「夕やけ小やけふれあいの里」があります。また、小津町では、古民家や耕作放棄地の再生など、市民による活動が行われています。

イ キーワード

大石氏と浄福寺城

室町時代に武蔵守護代を務めたとして知られる大石氏は、関東が戦乱の時代に入るとともに自らの支配地を拡大させ、現在の下恩方町に浄福寺城(松竹城、案下城、新城ともいう)を築きました。大永5年(1525年)に大石道俊が「城福寺(浄福寺)」を再興し、奉納した棟札があることから、このころまでに八王子市域に進出していたことがわかります。大石氏は新たな拠点として高月城を築城し、さらに滝山城も築城したと思われます。また、大石氏が建立に関わったと伝わる寺社も建てられています。



浄福寺城跡

浄福寺城跡のある下恩方町には「下原刀匠康重鍛刀の地」や「下原刀鍛冶発祥の地」などの下原鍛冶に関わる碑が建てられています。下原鍛冶の起源は文亀・永正年間(1501～1521年)に刀鍛冶の山本但馬周重が鎌倉より移住し、下原(現下恩方町)で鍛刀を始めたことによるといわれています。

区分	主な歴史文化資源
国指定文化財	八王子城跡(伝小田野屋敷跡(西寺方町))
都指定文化財	浄福寺観音堂内厨子
市指定文化財	浄福寺城跡、下原刀鍛冶発祥の地〔下恩方町〕、下原刀匠山本但馬國重鍛刀の地〔下恩方町〕、下原刀匠康重鍛刀の地〔下恩方町〕
指定文化財以外の歴史文化資源	山の根の道

恩方の信仰と伝統文化

下恩方町の心源院には、織田氏の進攻により八王子に逃れてきた武田信玄の娘松姫^{まつひめ}が住職の弟子となって出家し、信松尼^{しんしょうに}の法名を賜ったという話が伝わっています。

下恩方町には八王子車人形の西川古柳座^{にしかわこりゅうざ}があります。八王子車人形は、文政8年(1825年)に現在の埼玉県飯能市に生まれた初代西川古柳(山岸柳吉)が考案したもので、「ロクロ車」という底に3つの車輪がついた箱に腰かけて、一人で一体の人形を遣う人形芝居です。

上恩方町の「上案下のセエノカミ」は、正月の伝統行事として受け継がれています。正月7日に町内の各戸から出された正月飾りなどを、竹や縄で作った「セエノカミ」にまとめ、14日にたき上げる行事です。たき上げる際には、人々が火を囲んで、無病息災などを祈願し、「マユダマ」と呼ばれるお団子を焼きます。

伝統芸能として小津町の「小津の獅子舞」が現在も伝わっています。獅子舞は、およそ400年前に、五穀豊穰や雨乞いを祈願するために始められたといわれています。このほか、御嶽神社の百八灯などの年中行事が行われています。



上案下のセエノカミ

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	八王子車人形(西川古柳座)
市指定文化財	上案下のセエノカミ(上案下町会)、小津の獅子舞(小津獅子舞太刀保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	心源院、御嶽神社(百八灯)、神明神社(獅子舞)、熊野神社(獅子舞)、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

夕焼け小焼けの原風景

恩方地区は、童謡「夕焼け小焼」ゆかりの里です。作詞者の中村雨紅なかもらうこうは恩方村上恩方（現上恩方町）の出身で、生誕地近くの宮尾神社には「夕焼け小焼の碑」が建てられています。陣馬街道沿いには、日本の原風景ともいえる山あいの豊かな自然の中にお寺が点在し、歌詞の情景を連想することができます。

平成8年(1996年)には、農作業への理解と地域の振興を目的に「夕やけ小やけ文化農園」が開園しました。その後、平成12年(2000年)に、観光施設として「夕やけ小やけふれあいの里」に改称し、現在も市民に親しまれています。



夕焼け小焼の碑（宮尾神社）

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	夕やけ小やけふれあいの里、夕焼け小焼の碑〔宮尾神社〕、中村雨紅詩碑〔興慶寺〕、夕やけ小やけの鐘の碑・夕焼け小焼の碑〔宝生寺〕、夕焼けの鐘の碑〔観栖寺〕、案下道（陣馬街道）

恩方の生業

「案下炭あんげずみ」は、上恩方町だいごの醍醐かみ・上案下しも・下案下・狐塚などの地域で製炭された炭のことで、寛保3年(1743年)には「案下炭」の名称が使われています。江戸時代には八王子周辺の炭は江戸へ供給されるようになり、「八王子炭」「八王子の炭焼」といわれていました。恩方村の製炭最盛期は昭和10～15年(1935～1940年)ごろで、現在は炭焼き体験や案下炭再現の取組などが行われています。

農業面では戦後に畑の作付けの変更が試みられ、キュウリ・ナス・インゲン・トマトなどが栽培され、出荷されていました。昭和30年代前期になるとイチゴ栽培が導入され、昭和45年(1970年)ごろには「観光イチゴ園」に取り組み、さらに、昭和54年(1979年)には陣馬リンゴの生産が始められ、「東京でリンゴ」と話題になりました。平成9年(1997年)からはブルーベリーの栽培が行われるようになり、現在の特産品になっています。また、ヤマメ・ニジマスなどの養殖や放流も行われています。



炭焼きの準備

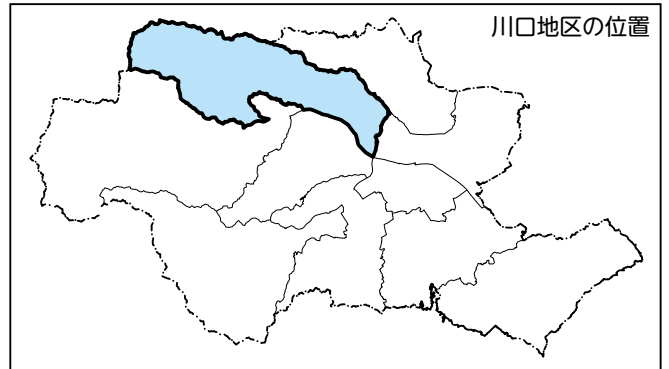
区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	案下炭、上恩方の田園風景

(6) 川口地区

ア 地区の概要

本市の北西部、川口川の上・中流域に位置する旧川口村の区域です。旧川口村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

東部の加住南丘陵と、中央部の川口丘陵が南北になり、2つの丘陵の間を流れる川口川に沿った東西に長い地区となっています。平安時代に作られた辞書『和名類聚抄』に載っている川口郷は、



川口地区に所在した地名であろうといわれています。『武蔵名勝図会』に記載されている川口氏の館跡と伝承される場所には「川口兵庫介館跡」碑が建てられています。この地区は明治時代には自由民権運動が高揚した地域でもありました。

川口地区には、中原遺跡や檜原遺跡、宮田遺跡といった多くの遺跡が発掘されています。また、この地区には古くからそれぞれに伝わる3つの獅子舞があり、現在も継承されています。

イ キーワード

川口の遺跡と遺物

川口地区には、縄文時代の宮田遺跡、中原遺跡、檜原遺跡、弥生時代の終わりから古墳時代前半の原屋敷遺跡や犬目甲の原遺跡などがあり、古くから郷土史家によって調査が行われてきました。川口川左岸には、河岸段丘上に川口古墳や鹿島古墳など、市内では調査例の少ない小型の円墳が築かれています。宮田遺跡からは子どもを抱いた「子抱き土偶」、檜原遺跡からは土偶の中を空洞にして鳴子を入れた「土鈴形土偶」など、珍しい形をした土偶が出土しています。



子抱き土偶（複製）と土鈴形土偶

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	弥生式土器 **
指定文化財以外の歴史文化資源	宮田遺跡、中原遺跡、檜原遺跡、原屋敷遺跡、犬目甲の原遺跡、川口古墳、鹿島古墳、子抱き土偶(複製) *、土鈴形土偶 *

川口の信仰と伝統文化

川口地区では、貞治3年(1364年)から始まったと伝えられている「今熊神社の獅子舞」、江戸時代に始まったと伝えられる「田守神社の獅子舞」「山入ささらの籠獅子舞」の3つの獅子舞が現在も舞われています。川口地区の西端にある今熊山は、行方不明者や家出人などを呼び戻すことができるという御利益があるとされていることから、別名、「呼ばわり山」といわれており、それにまつわる様々な伝承が残されています。



田守神社の獅子舞

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	今熊神社の獅子舞(今熊神社獅子舞保存会)、田守神社の獅子舞(田守神社獅子舞保存会)、山入の籠獅子舞(美山町籠獅子舞保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	今熊神社(獅子舞)、正福寺(獅子舞)、田守神社(獅子舞)、日枝神社(獅子舞)、琴平神社(獅子舞)、祭囃子(囃子連)、どんど焼き

川口の生業

嘉永6年(1853年)に下川口村(現川口町)で生まれた河井宗兵衛は麦の品種改良を行い、耐寒性などに優れた「宗兵衛裸麦そうべえはむぎ」を作りだしました。当時は主食として麦が重視されていたことから「宗兵衛裸麦」は優良品種とされ、最盛期には東京府の裸麦栽培面積の42パーセントを占め、昭和17年(1942年)に東京都の奨励品種に指定されました。その後の食糧事情の変化のために生産されなくなりましたが、現在、復活栽培が行われています。



川口エンドウ

川口地区で生産されていた川口エンドウは、昭和40年代に畑の宅地化や収穫期間が短く手間がかかることから急速に姿を消していきましたが、平成26年(2014年)、江戸東京野菜*に認定され、地元の生産者を中心に「川口エンドウ普及プロジェクト」が発足し、生産活動が始まっています。

*** 江戸東京野菜**
東京の野菜文化継承のため、江戸期から昭和中期までの在来種や在来の栽培法等に由来する野菜に対して認定

上川町の北沢谷戸には「上川の里」と呼ばれる緑地が整備・保全され、現在は「上川の里特別緑地保全地区」に指定されて、棚田や遊歩道の整備などが進められています。

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	川口エンドウ(江戸東京野菜)、偉農河井宗兵衛頌徳碑(川口町)、上川の里特別緑地保全地区

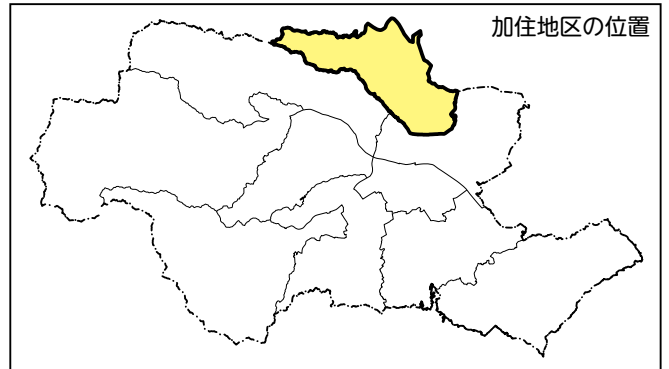
(7) 加住地区

ア 地区の概要

本市の北東部に位置する、旧加住村の区域で、谷地川中流部の両岸にまたがっています。旧加住村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

中央部には、滝山街道及び新滝山街道が通っています。南部の加住南丘陵では、原始から中世に至る時代の遺跡が発掘されています。北部の加住北丘陵には、大石氏と北条氏照の居城であった滝山城跡があります。

また、江戸時代初めの書物『毛吹草』には、「滝山、横山^{つむぎ(絹)}紬島」という名前の織物が出ていることから、そのころ既にこの地で、織物が織られていたとも考えられます。



イ キーワード

加住の遺跡と遺物

寺前遺跡からは市内で初めて旧石器時代の石器が見つかっています。

多摩川の支流である谷地川の上中流域では古代の鍛冶に関連する遺跡が確認されています。^{くぬぎやつ} 梶谷遺跡では複数の住居跡から鉄塊や鉄製の^{やじり} 鎌、^{はいさいば} 帯金具など多様な金属製品が出土しています。住居跡近くに^{てっさい} あった^{みなみやつ} 廃滓場からは鉄滓や羽口などが出土しており、鍛冶を生業としていた集落の存在が想定されます。南谷遺跡では斜面地を切り崩して屋敷が造られた中世の遺構が見つかっています。



碗形鉄滓(梶谷遺跡)【東京都教育委員会所蔵】

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	寺前遺跡、梶谷遺跡、南谷遺跡

中世城郭 滝山城

加住北丘陵に築かれた滝山城は、全国でも有数の中世城郭です。自然の地形を利用して堀や土塁などが計画的に配置され、防御性を高めていることがよくわかりま

す。近くには大石氏が築城したと伝わる高月城跡もあります。

滝山城の南には東西に滝山街道が通り、道筋に滝山城下が形成され、横山・八日市・八幡宿の地名が伝えられています。鎌倉道といわれる南北をつなぐ道筋の存在も伝わっており、戦国時代には滝山城を中核として交通の要衝となっていたことがわかります。滝山城跡の東には北条氏照開基の少林寺があります。



滝山城跡

滝山城跡は現在、都立滝山公園となり都内有数の桜の名所になっています。

区分	主な歴史文化資源
国指定文化財	滝山城跡
指定文化財以外の歴史文化資源	高月城跡、圓通寺、少林寺、滝山街道

加住の信仰と伝統文化

梅坪町の伝統芸能として、戦国時代から舞われてきたとされる「梅坪のささら籠獅子舞」がありましたが、昭和44年(1969年)の天神神社落慶式での奉納を最後に休止しています。加住町の龍源寺には、室町時代に建てられた「龍源寺の文安の板碑」があり、銘文から豊作を祝って月を祀るつきまち月待侍養の際に建てられたことがわかります。



梅坪の籠獅子舞の獅子頭

高月町滝地区では、伝統行事「福の神」が行われています。毎年1月7日に、この春から小学校へ入学する子どもから小学校6年生までの子どもたちが、背中に正月のお飾りを背負い、福俵を持って家々を訪れ、福俵を家の中へ投げ込んだり引き寄せたりしながら、家に福の神が入り貧乏神を追い出すうた唄を唄うという、子どもたちが主体の珍しい年中行事です。

宮下町では、重松流を伝承している囃子連があり、滝山城跡桜まつりや若松神社の祭礼などで演奏されます。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	梅坪の籠獅子舞(天神神社氏子)、龍源寺の文安の板碑
指定文化財以外の歴史文化資源	福の神、若松神社、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

加住の生業

良質な水環境に恵まれた高月町には、都内最大の田園が広がり、八王子の米どころ

ろとなっています。農業は、米・野菜・果物・花き・畜産・しいたけなどとの複合経営が特徴です。「TOKYO X (東京エックス)」という東京の地域特産豚肉の生産や、アイガモを利用した稲作、八王子ショウガ、パッションフルーツの栽培など意欲的な取組も行われています。

また、高月町には樹齢 400 年と推定される「高月のクワ」があります。近代以降、織物業や養蚕業は盛衰を経験しましたが、高月町では伝統工芸品として国や都の指定を受けた「^{たまおり}多摩織」を織る工場が稼働し、加住町では現在も養蚕農家による繭の生産・出荷が続けられています。



高月の田園風景

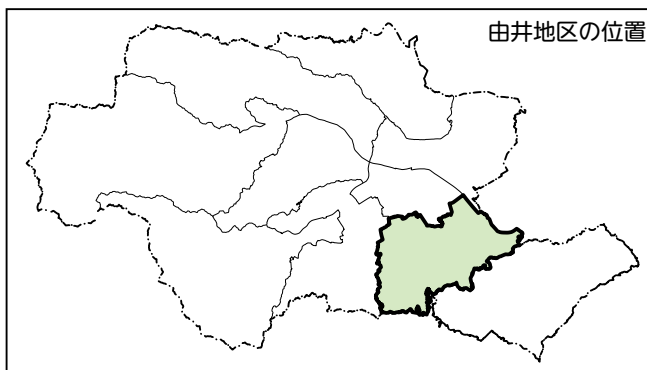
区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	高月のクワ〔高月町〕
指定文化財以外の歴史文化資源	多摩織、八王子ショウガ(江戸東京野菜)、高月の田園風景

(8) 由井地区

ア 地区の概要

本市の南東部に位置する旧由井村の区域で、南部には多摩丘陵が東西に横たわっています。旧由井村は、昭和30年（1955年）に八王子市と合併しました。

「由井」という村名は、江戸時代の領名から採られています。元をたどると、古代の由比（柚井・油井）がその由来です。



由井地区では、小比企向原遺跡や滑坂遺跡など多くの遺跡が確認されています。古代には御殿山周辺には多くの窯が造られ、武蔵国府・国分寺などで使われる瓦や須恵器を大量に生産していました（御殿山窯跡群）。

由井地区には、古くから七国峠や御殿峠を越えて南北をつなぐ道が通っており、現在も古道として残っている場所があります。

かつては農家の副業であったメカイやムシロづくりは生業としては衰退しましたが、その技術は今でも継承されています。広大な丘陵地を利用して酪農が営まれ、乳牛の飼育・乳製品の生産が行われています。西部の小比企丘陵は、野菜生産団地とも呼ばれ市内農業生産の主要な地域となっています。

イ キーワード

由井の遺跡と遺物

由井地区の多摩丘陵には多くの縄文時代の遺跡があります。中でも滑坂遺跡や郷田原遺跡、小比企向原遺跡では多くの住居跡が見つかっており、縄文時代中期の集落跡とされています。古代の遺跡には武蔵国府で使用する瓦や須恵器などを焼いた御殿山窯跡群があり、多くの遺物が出土しています。この窯跡群は、国府への近さ、窯を設けやすい立地、燃料としての木材の確保のしやすさなどからこの地が選ばれたものと考えられています。



発掘された窯跡（御殿山窯跡群）

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	北野石器時代住居跡〔北野天満社〕
指定文化財以外の歴史文化資源	滑坂遺跡、郷田原遺跡、小比企向原遺跡、御殿山窯跡群、須恵器*、瓦*

南北の交通の要衝

由井地区には、古代から人の往来があり、「峠」とつく地名が今でも残っています。現在の国道16号線の「御殿峠」の西側には、かつての古道が残されています。この古道の峠は、古くは峰の上に杉の木立があったことから「杉山峠」と呼ばれていました。この御殿峠古道は、永禄12年(1569年)の甲斐武田軍による関東侵攻の折、滝山城を攻めた後に武田軍が北条氏の本拠の小田原を目指して南下した際に通ったとも伝わる道です。御殿峠の西側には「七国峠」を通る古道があり、明治時代には群馬県や山梨県方面から八王子町を経て鎌水村あるいは御殿峠を經由し、横浜へ絹を運ぶ浜街道の脇道としても利用されました。

由井地区と由木地区の間には猿丸峠さるまる(現野猿峠)があり、野猿街道が通っています。

御殿峠の北側の片倉町には応永年間(1394～1428年)に大江氏一族の長井氏が築城したと伝わる片倉城跡があり、現在は片倉城跡公園として整備されています。ここでは、都内では少なくなったカタクリの群生やヤマブキソウなどの草花が見られ、また、多くの彫刻作品が展示されています。



野猿峠の水のみ場

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	片倉城跡
指定文化財以外の歴史文化資源	七国峠古道、野猿峠の水のみ場、片倉城跡公園

由井の生業

由井地区では、農業の副業としてメカイづくりやムシロづくりが行われていました。メカイは目籠めかこの南多摩地域での呼び方で、宇津貫うつ地域でのメカイづくりは文化年間(1804～1818年)以前にさかのぼるといわれています。

北野町は、かつては水田の多い地域でした。京王線北野駅前には昭和56年(1981年)に「田植えの像」が建てられ、開墾と田畑の恵みが人々の生活を築いてきた歴史を今に伝えています。

小比企丘陵では、現在でもダイコン、カブ、コマツナ、キュウリ、トマト、ナス、ハクサイ等が栽培されています。養豚・花き栽培も盛んで、酪農も行われており、市民に親しまれている牧場があります。



田植えの像

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	田植えの像、メカイづくり

由井の信仰と伝統文化

打越町には打越弁財天があります。弁天堂は、天正年間（1573～1592年）の開創と推定され、古くから養蚕守護や技芸上達、商売繁盛の神として広く信仰を集めてきました。弁財天は、蚕の大敵である鼠^{ねずみ}を退治する蛇を御神体とし、打越弁財天は、「絹の道」にも近いことから、八王子市域はもとより関東近県から多くの信仰を集めました。古くから続く祭礼は、現在も5月に執り行われています。



打越弁財天

片倉城跡内にある住吉神社や小比企町にある稲荷神社の祭礼などでは地元の囃子連が演奏しています。

区分	主な歴史文化資源
指定文化財以外の歴史文化資源	打越弁財天、住吉神社、稲荷神社、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

(9) 浅川地区

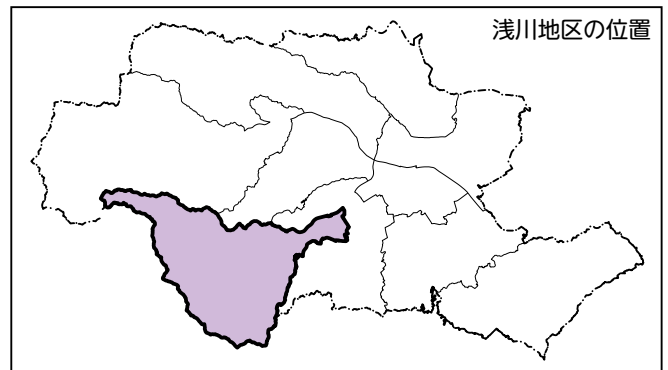
ア 地区の概要

本市の南西部に位置する旧浅川町の区域で、関東山地の南東端に当たります。旧浅川町は、昭和34年（1959年）に八王子市と合併しました。

旧浅川町のほぼ全域が都立高尾陣場自然公園になっており、豊かな生態系が保たれています。

江戸時代には、甲州道中が小仏峠を越えて小原宿（現相模原市）へと通じていましたが、車両の通行が困難な道であったため、明治21年（1888年）に大垂水峠おおだるみを通る新道が開通し、現在の甲州街道（国道20号）になりました。

高尾町にある高尾山薬王院は、古くから霊場として知られ、多くの信者が参拝に訪れています。また高尾山は、現在、登山者数が世界一といわれ、大いににぎわっています。高尾山の麓には氷川神社が鎮座し、獅子舞が継承されています。



浅川地区の位置

イ キーワード

東西南北の交通の要衝

浅川地区は、東西に貫く甲州道中と、南北に縦断する鎌倉街道の支道（山の根の道）が交差し、古くから交通の要衝として発展してきました。

永禄12年（1569年）に武田信玄が小田原北条氏を攻める際に、武田軍の別働隊が滝山城を攻めるために小仏峠から侵入し、廿里付とどり近で北条方と合戦になったといわれています。小仏関は、初めは小仏峠にありましたが、天正8年（1580年）に駒木野へ移ったといわれています。



小仏関跡

近代になると、高尾山や多摩陵と八王子市街地を結ぶ路面電車が開通し、多くの観光客が訪れるようになりました。現在も甲州街道と高尾街道、中央道と圏央道がそれぞれ交わる交通の要衝となっています。

区分	主な歴史文化資源
国指定文化財	小仏関跡〔裏高尾町〕
市指定文化財	廿里古戦場
指定文化財以外の歴史文化資源	山の根の道、旧甲州街道

浅川の信仰と伝統文化

高尾山は山岳信仰の修験道の山として、古くから信仰の対象とされてきました。天平16年(744年)に、聖武天皇の勅命を受けた行基菩薩が高尾山薬王院を開山したといわれ、室町時代には、京都やましろのくに山城国醍醐山の俊源大徳が中興したと伝えられています。以降、薬王院では飯縄大権現いづなだいこんげんを本尊とする信仰が今に続いています。戦国時代には、北条氏照が戦いの守護神としあつ篤く信仰したと伝わっています。江戸時代には、江戸への本尊の出開帳や配札によって関東一円から広く信仰を集めました。富士山信仰とも結びつき、「富士山に登る前にまず高尾山に登る」という両山講も民衆の間に広まりました。

また、明治5年(1872年)に狭間の獅子舞から分かれた「氷川神社の獅子舞」は、現在も氷川神社と熊野神社に、五穀豊穰・悪魔退散を祈念して奉納されています。



氷川神社の獅子舞

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	薬王院飯縄権現堂、高尾山不動堂、薬王院仁王門、薬王院大師堂、高尾山薬王院文書** (部分寄託)、木造不動明王及び二童子像〔薬王院〕、木造地藏菩薩立像〔薬王院〕
市指定文化財	氷川神社の獅子舞(氷川神社獅子舞保存会)
指定文化財以外の歴史文化資源	高尾山、火渡り、氷川神社(獅子舞)、熊野神社(獅子舞)、祭囃子(各囃子連)、どんど焼き

豊かな自然

関東山地の南東に位置する高尾山は、明治の森高尾国定公園に指定されています。また、高尾山を代表する動物としてムササビが知られています。その姿は江戸時代に書かれた『武蔵名勝図会』むさしめいしやうずえにも描かれるなど、古くから人々に親しまれてきました。

高尾山は、暖温帯の常緑広葉樹林と冷温帯の落葉広葉樹林の境界に位置し、153科約1600種の植物が自生し、また、日本三大昆虫生息地の一つに数えられています。南高尾山稜や北高尾山稜にも連なる周辺の環境とともに、ハイキングや自然観察の場にもなっており、高尾梅郷こまぎのや駒木野庭園など、自然を活用した地域づくりや庭園が整備されています。



小仏のカゴノキ

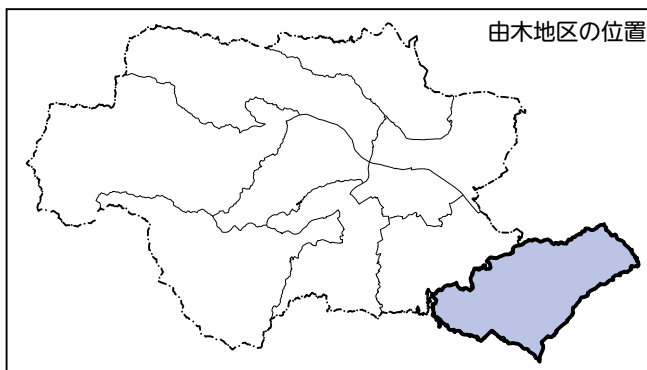
区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	高尾山のスギ並木、高尾山の飯盛スギ、小仏のカゴノキ〔宝珠寺〕
市指定文化財	高尾たこスギ
指定文化財以外の歴史文化資源	天狗の腰掛けスギ、江川スギ、高尾梅郷、駒木野庭園、ムササビ

(10) 由木地区

ア 地区の概要

本市の南東部に位置する旧由木村の区域で、多摩丘陵が東西に横たわっています。旧由木村は、昭和39年(1964年)に八王子市と合併しました。

由木という地名は、古くは「柚木」とも書き、12世紀ごろに八王子市域に成立した船木田荘に「由木郷」という地名も見られます。平安時代の末ごろから鎌倉時代の初期にかけて日奉党ひまつりとうの一族由木氏が住んでいたと伝わっています。



丘陵を水源とする小河川が、数多くの谷戸やとを形成し、谷戸田が営まれるなど、古くから人々の生産と生活の場を提供してきました。都市近郊の農村として、養蚕やわら細工、メカイづくりなどが副業として営まれていました。昭和40年(1965年)以降の多摩ニュータウン開発によって大規模な宅地造成が行われましたが、一方で現在も里山の原風景が見られる地区でもあります。

イ キーワード

由木の遺跡と遺物

由木地区では、多摩ニュータウンの開発に伴い発掘調査が行われ、多くの遺跡が発見されました。旧石器時代の遺跡としては、八王子最古の遺跡である多摩ニュータウンNo.402遺跡(松木)が確認されています。この遺跡からは石器を作る際の原石である石核せきかくやナイフ形石器などが出土し、八王子市域で最古の約3万5000年前の人々の暮らしの痕跡が確認されています。



中山白山神社経塚群出土品

中山の白山神社はくさんの境内からは、仏教の教えや経典を後世に伝えるための経巻を容器に入れて埋納した経塚せきかくが見つっています。この時に見つかった経巻の奥書には「船木田御庄」と書かれており、この地域が船木田荘ふなきだのしょうという荘園に含まれていたことがわかります。

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	中山白山神社経塚群出土品*
指定文化財以外の歴史文化資源	多摩ニュータウン遺跡、石核・ナイフ形石器などの出土品〔東京都埋蔵文化財センターほか〕、白山神社

谷戸の自然と生業

由木地区の丘陵から流れ出て大栗川にそそぐ小河川は、特徴的な谷戸を形成しています。谷戸の森林と豊富な水に恵まれ、自然と人々の生活が共生する、いわゆる里山風景が作り出されました。由木地区の村々では古くから農耕に加えて炭焼き、養蚕、糸取りなどを生業としてきました。絹の道の近くには「小泉家屋敷」があり、養蚕農家の様相をよく残しています。また、農家の副業で作られていた



小泉家屋敷

メカイ、ナワ、ムシロは由木地区の特産品でした。明治25年(1892年)、井草甫三郎によって多摩地域に初めて酪農が導入され、由木村は酪農の先駆村として知られるようになりました。由木地区の酪農は現在も続いています。

一方で、大規模なニュータウン開発が進められる中で姿を消した谷戸も多くあります。このため、谷戸の風景を保全するために里山公園などが整備されています。また、この地区の寺社等の敷地にはいくつもの天然記念物(樹木)が残されています。

区分	主な歴史文化資源
都指定文化財	小泉家屋敷
市指定文化財	大塚神明社のイチョウ、南大沢のオオツクバナガシ、下柚木御嶽神社のスダジイ、松木大石宗虎屋敷のサルスベリ
指定文化財以外の歴史文化資源	メカイづくり、炭焼き、牛魂碑〔永林寺〕

絹の道

由木地域には、幕末から明治の初めにかけて八王子から横浜に輸出用の生糸を運んだ浜街道や神奈川往還と呼ばれた道があります。その一部は保存されて「絹の道」という愛称で呼ばれ、文化庁選定「歴史の道百選」に選ばれています。この道は当時の西洋の生糸需要に応え、往路は八王子宿から横浜に生糸を運び、復路は西洋の学問や思想をもたらす役割を果たしました。また、横浜から外国人が八王子地域を訪れる道でもありました。



絹の道

当時、生糸の取引によって鎌水の養蚕に関わった農家は生糸商人として栄え、巨万の富を築き、後に地元の研究者によって「鎌水商人」と名付けられました。鎌水商人の一人、八木下要右衛門やぎしたようえもんの屋敷跡には現在、絹の道資料館が建てられています。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	絹の道、諏訪神社社殿
指定文化財以外の歴史文化資源	八木下要右衛門屋敷跡、絹の道碑、道了堂跡〔大塚山公園〕

由木の信仰と伝統文化

越野の越野会館には「裳掛^{もが}けの観音（木造聖観音菩薩坐像）」が祀られています。この菩薩坐像は、明治時代初期の廃仏毀釈^{はいぶつきしゃく}で廃寺となった導儀寺から今の場所に移されたものです。同会館には、二頭の獅子頭「オシシサマ」が保存されています。かつては、年に一度、正月ごろから風邪除けの神様として一頭ずつ越野の上（吹上）と下（中村・下根）の各家で順に一晩祀り、翌日、次の家に回したといひます。



越野のオシシサマ

由木地区には4つの囃子連があります。鑓水の囃子は、寛政元年（1789年）に神田明神の宮司一族が生糸商人の屋敷に泊まって村人に教えたことに始まるとされ、鑓水の諏訪^{すわ}神社や八王子まつりで演奏されています。南大沢の囃子は、大正時代初期からあったといわれていますが、現在の囃子は昭和25年（1950年）に町田市小山から習ったもので、南大沢の八幡神社の祭礼や八王子まつりで演奏されています。大塚の囃子は江戸時代末期に伝授されたといわれており、大塚の八幡神社の祭礼や元旦祭などで演奏されます。上柚木の囃子は明治時代にあったものが一時期衰退し、戦後、北野町から習ったもので、上柚木の愛宕^{あたご}神社の祭礼や八王子まつりなどで演奏されています。

区分	主な歴史文化資源
市指定文化財	木造聖観音菩薩坐像〔越野会館〕
指定文化財以外の歴史文化資源	越野のオシシサマ、諏訪神社、八幡神社〔南大沢〕、八幡神社〔大塚〕、愛宕神社、祭囃子（各囃子連）、どんど焼き

4. 八王子の歴史文化の特徴

地区ごとに整理した36の“地域の歴史文化を知るためのキーワード”は、次のとおりです。

地域の歴史文化を知るためのキーワード

旧八王子地区 ①甲州街道の宿場町 ②千人同心ゆかりのまち ③絹と織物 ④旧八王子の信仰と伝統文化	川口地区 ⑩川口の遺跡と遺物 ⑭川口の信仰と伝統文化 ⑰川口の生業
小宮地区 ⑤小宮の遺跡と遺物 ⑥多摩川の渡し場 ⑦織物の生産 ⑧小宮の信仰と伝統文化	加住地区 ⑫加住の遺跡と遺物 ⑬中世城郭 滝山城 ⑮加住の信仰と伝統文化 ⑱加住の生業
横山地区 ⑨横山の遺跡と遺物 ⑪東日本唯一の陵墓地 ⑫横山の信仰と伝統文化	由井地区 ⑲由井の遺跡と遺物 ⑳南北の交通の要衝 ㉑由井の生業 ㉒由井の信仰と伝統文化
元八王子地区 ⑬北条氏照と八王子城 ⑭元八王子の信仰と伝統文化 ⑮元八王子の水風景	浅川地区 ㉓東西南北の交通の要衝 ㉔浅川の信仰と伝統文化 ㉕豊かな自然
恩方地区 ⑯大石氏と浄福寺城 ⑰恩方の信仰と伝統文化 ⑱夕焼け小焼けの原風景 ㉖恩方の生業	由木地区 ㉗由木の遺跡と遺物 ㉘谷戸の自然と生業 ㉙絹の道 ㉚由木の信仰と伝統文化

このほか、歴史文化資源データベースから、市域には石造物が非常に多く残っていることや、地域に残る土地の名前には歴史の痕跡が見られることがわかりました。

これらのキーワードや歴史文化資源の特徴を俯瞰的に捉え、その共通性や特性の顕著さが認められるものについて整理・検討すると、次のような八王子の歴史文化の特徴を捉えることができます。

八王子の歴史文化の特徴

⑤小宮の遺跡と遺物	原始・古代の遺跡が八王子市域で数多く発見され、その数は都内最多。生活・文化の痕跡が今と重なる地域で存在し、子どもを抱いた土偶やイノシシをかたどった土製品など、珍しい出土品も多い。	原始・古代の 歴史文化
⑨横山の遺跡と遺物		
⑱川口の遺跡と遺物		
⑳加住の遺跡と遺物		
㉔由井の遺跡と遺物		
㉓由木の遺跡と遺物		

①甲州街道の宿場町	中世には鎌倉、小田原、甲州などへ続く道が成立、近世以降は織物の一大集散地として八王子宿が甲州道中最大の宿駅に発展。さらに開港地横浜へとつながり、いにしえから現在まで交通の要衝となっている。	交通の要衝 としての 歴史文化
⑥多摩川の渡し場		
㉓中世城郭 滝山城		
㉗南北の交通の要衝		
⑩東西南北の交通の要衝		

⑫北条氏照と八王子城	中世城郭が市内各地に成立、それを拠点に集落・道が形成される。氏照の支配下で滝山城・八王子城に城下町がつくられ、市も開かれるなど、人が集まり、まちを形成する基盤となった。	中世の 歴史文化
⑮大石氏と浄福寺城		
㉓中世城郭 滝山城		
㉗南北の交通の要衝		

①甲州街道の宿場町	八王子城落城後、八王子の治安維持に務めた千人同心が暮らす千人町。甲州道中の宿駅として、今の市街地の原型となった八王子十五宿。その後この地を中心として商業都市へと発展していった。	近世の 歴史文化
②千人同心ゆかりのまち		

③絹と織物	古来、養蚕・絹産業が営まれ、近世から続く市では織物の商いが盛んに。周辺も機業地として栄え、紡績や染物も営まれ、「桑都」「織物のまち」として全国に知られる都市となった。	絹織物の 歴史文化
⑦織物の生産		
⑳谷戸の自然と生業		
㉓絹の道		

⑭谷戸の自然と生業

⑮絹の道

横浜の開港により、生糸の流通路として、鎌水を通る浜街道がにぎわい、鎌水の養蚕家は生糸商となって財を築く。のちに浜街道は「絹の道」、生糸商は「鎌水商人」と呼ばれるようになる。

絹の道の歴史文化

⑭元八王子の水風景

⑰夕焼け小焼けの原風景

⑱恩方の生業

⑲川口の生業

⑳加住の生業

㉑由井の生業

⑳谷戸の自然と生業

関東山地から流れ出る河川と、それによって形成された丘陵や谷戸、そこに暮らす人々の生業は自然との共生により成り立ち、地域の伝統・文化として今に受け継がれている。

自然との共生による歴史文化

⑩東日本唯一の陵墓地

⑳浅川の信仰と伝統文化

㉒豊かな自然

高尾山周辺には多様な種の動植物が生息し、研究も盛ん。奈良時代に寺院が開山し、多くの信仰を集めてきた。「多摩陵」造営を契機に御陵と高尾山が全国に知られる。今や世界から300万人が訪れる一大観光地となる。

高尾山の歴史文化

④旧八王子の信仰と伝統文化

⑧小宮の信仰と伝統文化

⑪横山の信仰と伝統文化

⑬元八王子の信仰と伝統文化

⑯恩方の信仰と伝統文化

⑳川口の信仰と伝統文化

㉒加住の信仰と伝統文化

㉑由井の信仰と伝統文化

⑳浅川の信仰と伝統文化

㉒由木の信仰と伝統文化

10の市町村が合併した八王子は、文化的にも都市と農村の両方の特性を併せ持つ。都市部では商業にまつわる祭礼や山車祭りが、農村部では五穀豊穡を願う祭礼や獅子舞、どんど焼きが伝統として伝わっている。火消しに伝わる木遣や祭りに欠かすことのできない囃子も継承されている。

地域に伝わる伝統文化

特定の地域や地区を問わず…

◇石塔・石碑など石造物が非常に多く残っている(歴史文化資源データベース)

◇地域に残る地名・字名には土地の歴史の痕跡を見ることができる

◇地域の呼称は、そこで暮らす人々の記憶や伝承として今に伝えられている

石碑や地名から読み解く地域の歴史

まちの記憶 6

三姉妹都市に刻まれた八王子の歴史

～千人同心がっないだ 八王子・日光・苫小牧～

八王子の歴史は市外にも刻まれています。
寛政12年(1800年)、千人頭^{ほらはんざえもんたねあつ}原半左衛門胤敷



勇弘原野開拓記念碑(苫小牧市)

らが蝦夷地の開拓に向かいます。千人同心の活躍は苫小牧市民の間で語り継がれており、苫小牧市では「蝦夷地開拓移住隊士の墓」が市指定文化財として大切に保護され、市民会館前には千人同心の顕彰碑も建てられています。

慶応4年(1868年)、日光に東征軍が進駐してきた時、火の番を務めていた千人頭^{いしがやじえもん}石坂弥次右衛門義礼は日光東照宮への戦火を避けるため、日光を明け渡して貴重な歴史的遺産を守りました。東照宮表参道の起点には千人同心を顕彰する碑が建てられ、今も静かに東照宮を見守っています。



日光火之番八王子千人同心顕彰之燈(日光市)

まちの記憶 7

天然理心流を 多摩地域に広めた近藤三助

江戸末期の多摩地域で数多くの剣の達人を生んだ「天然理心流」のふるさとは、戸吹にありました。

天然理心流二代目の近藤三助は、多摩郡戸吹村(戸吹町)中郷の名主を務めてきた坂本家に生まれました。しかし、三助は名主を継がず、自宅に道場を構え、農民や町人の別なく剣を志す者に広く門を開放し、多摩一円から多くの人材を募ります。戸吹町の桂福寺にある「近藤虚士碑」には、その門人数は1500名と記されており、相州津久井県(神奈川県相模原市)・高座郡(神奈川県寒川町)・愛甲郡(神奈川県愛川町・清川村)・甲州北都留郡(山梨県小菅村・丹波山村)にも稽古に出向していたことがうかがえます。

三助の門弟の中には、八王子千人同心組頭の増田蔵六や後に天然理心流三代目となった近藤周助も含まれていました。誰もがよく知る新選組の隊長・近藤勇は、三代目の周助の養子となり、天然理心流四代目となりました。

御嶽神社(狭間町)の祭礼で奉舞される「狭間の獅子舞」の棒術と、神明神社(小津町)と熊野神社(小津町)の祭礼で奉舞される「小津の獅子舞」の太刀振りと棒術にも、天然理心流が脈々と受け継がれています。

八王子から多摩地域に天然理心流を広めた近藤三助。彼の墓は、桂福寺の境内にひっそりと佇んでいます。



桂福寺(戸吹町)にある近藤三助の墓